

1. 科目名 (単位数)	海外留学入門 (2単位)	3. 科目番号	EIJP2102
2. 授業担当教員	阿部 裕子		
4. 授業形態	講義、演習、リサーチ、ペア・グループ活動	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	海外留学を成功させるにはどのような知識、スキル、態度が必要なのか。また、海外の人と交流したり、海外の大学で授業を受けるにはどのような事前準備が求められるのか。本授業では、海外留学成功に必要な基礎的知識、スキル、態度とは何かを考え、それらを身につけることを目指した学習を行う。その中で、異文化と自文化の理解を深め、自国文化を紹介したり、自己表現ができるようなコミュニケーションスキル、海外の大学の授業についていけるようなアカデミックスキルを向上させ、様々なトラブルに対応できる柔軟性を培うような実践的活動を行っていく。		
8. 学習目標	1. 海外留学を通してどのような成長が期待できるか、自分なりの意見が持てるようになる。 2. 異文化や自文化の理解を深め、自分なりに表現したり紹介したりできるようになる。 3. コミュニケーションスキルの向上、アカデミックスキルの習得を目指し、様々なトラブルに柔軟に対応しようとする態度を身につける。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 各回の事前学習・事後学習を参照して、予習・復習を行い、それを記録しておく。 2. 次の課題のレポートを指示された日時までに作成して提出する。 本授業のテーマ (多文化共生、差別・偏見、現代の国際社会における時事問題) に基づき、海外留学成功に必要な知識・スキル・態度について論じる。具体的な事例分析やアクションプランを含めること。 3. 各自が定めた研究テーマについてグループ活動で学び深め、プレゼンテーションを行う。 グループ研究テーマ (例) : 日本の多文化共生施策、在日外国人コミュニティの現状、国際紛争と平和構築、グローバル社会における人権問題など。 詳細については講義内で指示する		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 指定しない。講義資料は授業中に適宜プリント教材として配布する。 【参考書】 加賀美常美代 (編著) 『多文化共生論-多様性理解のためのヒントとレッスン』明石書店, 2013年 松尾知明著 『「移民時代」の多文化共生論-想像力・創造力を育む14のレッスン』明石書店, 2019年 講義内で使用するその他の資料は、担当者が随時用意する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準(学習目標) 1. 海外留学を通してどのような成長が期待できるか、自分なりの意見が持てるようになったか。 2. 異文化や自文化の理解を深め、自分なりに表現したり紹介したりできるようになったか。 3. コミュニケーションスキルの向上、アカデミックスキルの習得を目指し、様々なトラブルに柔軟に対応しようとする態度を身につけられたか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する 1 授業中の態度・積極的参加度 総合点の30% 2 課題 (レポート等) 総合点の30% 3 プレゼンテーション 総合点の40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目の核心は、多様な文化や価値観が交錯する現代社会において、いかに「多文化共生」を体現するかを深く探求することにあります。受講生の皆さんが、海外への挑戦や日本での留学生活、日々の異文化交流の中で得た経験を持ち寄り、ディスカッションやグループワークを通じて客観的に分析・共有します。日本人学生、留学生という枠組みを超え、多様な視点があつかり合うこのクラスそのものが多文化共生の縮図です。授業の学びを充実させるには、自身の経験や知識に基づき、積極的に討論に参加し、仲間と互いに学び高め合おうとする姿勢が不可欠です。この主体的な態度も評価対象となります。自身の経験を、世界のどこでも通用する「協働する力」へと昇華させていく、意欲ある参加を期待します。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。 授業担当教員メールアドレス : hiabe@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション / ガイダンス : グローバル社会と多文化共生	事前学習	シラバスを確認し、扱うテーマ内容について把握しておく
		事後学習	総務省の多文化共生の定義を確認する。
第2回	日本の多文化共生施策の現状と課題	事前学習	居住地域の自治体の多文化共生ガイドラインを調べる。
		事後学習	講義内容を振り返り、日本の施策の課題を抽出する。
第3回	世界の多文化共生の状況や施策	事前学習	ヨーロッパ諸国の移民政策の違いを調べる。
		事後学習	講義内容を振り返り、日本の施策との比較検討を行う。
第4回	多様性とアイデンティティ : 留学先での自己理解	事前学習	自己の文化的背景を振り返る。
		事後学習	講義内容を振り返り、異文化との出会いの経

			験を言語化する。
--	--	--	----------

第5回	【差別実験】マジョリティとマイノリティの視点	事前学習	差別と偏見に関する基礎知識を学ぶ。
		事後学習	講義内容を振り返り、実験から感じたことを記録、整理しておく。
第6回	在日外国人①：歴史的背景と現状	事前学習	在日コリアンの歴史に関する基本的な知識を得る。
		事後学習	講義内容を振り返り、当事者の視点から問題を理解する。
第7回	在日外国人②：ムスリム・クルド人等	事前学習	日本におけるイスラム文化の受容状況を調べる。
		事後学習	講義内容を振り返り、メディア報道における偏見について考察する。
第8回	偏見と差別-構造と影響：異文化トラブルへの対応	事前学習	無意識のバイアスについて学ぶ。
		事後学習	講義内容を振り返り、差別をなくすための具体的な行動を考える。
第9回	現代の国際社会における時事問題（1）：国際貢献と国家の役割	事前学習	指定された国際情勢に関するニュースサイト等を確認し、主要なトピックスを把握する。
		事後学習	講義内容を振り返り、国家間の対立や国際機関の役割の変化が、個人の移動や共生に与える影響を考察する。
第10回	現代の国際社会における時事問題（2）：人権の普遍性と多様性	事前学習	国際社会で議論となっている人権問題について、複数の異なる視点からの報道を比較する。
		事後学習	講義内容を振り返り、文化相対主義と人権の普遍性の葛藤について、自身の言葉でレポートにまとめる。
第11回	多文化社会における平和構築と相互理解	事前学習	ガルトウングの「積極的平和（構造的暴力の排除）」の概念について基礎知識を得る。
		事後学習	講義内容を振り返り、異なる意見を持つ相手と合意形成を行うために必要な態度は何かを考察する。
第12回	行動計画：留学で活かす共生社会に向けたアクションプラン	事前学習	配布資料（多文化社会の未来を切り拓く想像力・創造力を育むための事例集）を熟読する。
		事後学習	講義内容を振り返り、自身が講義で得た学びを行動に移すための具体的な計画を立案する。
第13回	アカデミックスキル：レポート執筆と論理的思考	事前学習	課題レポートの構成案（論旨、根拠、結論）を持参する。
		事後学習	相互レビューで得たフィードバックに基づき、論旨が明確なレポートを完成させる。
第14回	グループ・プレゼンテーション	事前学習	グループ全員で発表資料（スライド等）を完成させ、発表練習を行う。
		事後学習	発表内容と質疑応答に対する相互評価を実施し、フィードバックシートを記入する。
第15回	フィードバックと総括：海外留学成功の意義とは	事前学習	これまでの授業内容全体を振り返り、不明な点を確認しておく。
		事後学習	プレゼンテーション発表や討論、講義内容を振り返り、本授業で得た学びを自身の将来にどう活かすか考察する。